

事務事業名 健康づくり推進事業

出力日：令和02年03月19日

キーコード：354

施策：	09	健康づくりの推進	財務コード	01040104-01-00
基本事業：	02	生活習慣の改善	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	週2回以上運動をする市民の割合 定期的に歯科検診を受けている市民の割合 喫煙している市民の割合 睡眠・休養がとれている市民の割合		担当課	健康推進課
			担当係	健康企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成14年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民			健康増進・介護予防関連の運動事業 市健康運動指導士が健康づくり運動サポーターの会と連携しながら推進している。 地域型健康づくり講座（軽運動、ウォーキング、筋トレ） H30：7回にて全7講座、計120回、延3,129人、資料代300円 高齢者健康学級（ロイヤリティールームの啓発と実践） H30：57回（シニア等にて開催）、延1,289人 万葉の里ちくしのウォーキング事業 11月開催（50-75設定）H30：403人 健康づくり運動サポーターの会へ一部事業委託 筑紫野市健康づくり推進協議会：委員19名（小委員会9名）、H30：3回/年 健康推進に係る企画立案、啓発、健康川柳の募集・選考・表彰等 根拠法令：筑紫野市健康づくり推進協議会設置条例							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりのための運動等に取り組む人を増やし、生活習慣病予防や介護予防に繋げる。 市民の健康づくりを積極的に推進するために協議会を設置し、健康づくりのための企画立案や広報活動等を通して、市民協働の健康づくりを推進する。 										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	29年度	30年度	01年度	02年度	03年度	04年度	目標	
			実績	実績	当初	要求	計画	計画		
健康づくり運動サポーター活動回数		回	189	178	180	180			180	
延べ参加者数		人	5,015	4,821	4,500	4,800			4,500	
5. コスト										
事業費		計	千円	4,807	5,981	6,219	6,896			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	106	74	90	90			
一般	千円	4,701	5,907	6,129	6,806					
正職員人工数		人工	0.5	0.5	0.4					
正職員人件費		千円	3,998	4,045	3,226					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	8,805	10,026	9,445	6,896				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<状況> 健康づくり運動サポーターの活動回数は昨年度より13回減少し178回となっています。延参加者数は昨年度より194人減少し4,821人です。 <原因> 地域型健康づくり講座を9講座から7講座としたため、講座数が13回減少したことが主な原因です。ウォーキング主体であった2講座を、地域の自主活動に位置づける見直しを行いました。 <課題> 地域型健康教室の講座参加者が固定化してきているため、新規の参加者を増やす必要があります。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし		・万葉の里ちくしのウォーキングの参加者数が伸びてないことから、より多くの市民が参加されるよう関係団体への参加呼びかけを強化した。そのためか、申込者数、参加数ともに増加したが、高齢者が多いこともあり当日の欠席者も多かった。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
・地域型健康づくり講座は、講座プログラムの見直し及び運動サポーターの育成を強化し、質の担保に努める。また、周知方法を工夫し、新規参加者を増やす。 ・万葉の里ちくしのウォーキングの周知方法、ウォーキングコースごとの内容を見直す。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
・H14年度より健康運動推進を図る為、健康運動指導士を嘱託雇用し、H24年度より2名体制で対応。 ・地域の健康づくりを市民の力で推進するための支援者として、H18年度より「健康づくり運動サポーター」の養成を開始。 H22年4月に「健康づくり運動サポーターの会」が設立。						・健康づくり運動サポーターの養成・育成に関する事業については、H28年度より「健康づくり人材育成事業」へ移行しました。				